

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：兵庫県明石市立二見西小学校

活動名：見つめ直そう 学びと心 ～ピンチをチャンスに変える教育課程～

解決すべき課題：

学力向上、特別支援や生徒指導等の生活の中で生じる子どもや教員の学びと心の課題が本校でよく上がる言葉だ。教員が抱える課題は多様で、時間は有限である。加えて、子ども達や同僚との関わりの中で生まれる「しんどかったけど、やって良かった」という遣り甲斐に、生産性の低さや疲労感はマスクされている現状もある。これらの課題は、コロナ禍においてより浮き彫りとなり迫ってきた。そこで、子どもも教員もハッピーにする資質能力の向上に注目して、学びと心を見つめ直し、教育課程を軸に学校組織の力を高めていきたいと考えた。

目標・方針：「教育課程を軸にベクトルを揃え、ピンチをチャンスに変えていこう！」

- ① 学校教育目標を飾りとししない。みんなで実態把握、目ざす姿を資質能力の視点で言語化・見える化。
- ② 学びと心を支えるカリキュラムマネジメントを手段にして、子どもも教員も「やればできる」を実感しよう。
- ③ 働き方改革のネガティブなイメージを変える。ビジョンに向かって、時間を有効に生かしたポジティブな働き方へ。

活動内容：

ビジョンとなる目ざす子どもの姿を共有するためにカリキュラムマネジメントの全体研修を 2 回行い、個人、学年層、全体へと考えを共有し、具体的に資質能力を軸に言語化していった(図 1・2、写真 1)。さらに、教育課程を軸として学年や部会で話し合い(写真 2)、カリキュラムを縦横に見つめ直し、共有しながら見通しをもった実践を進めた(写真 3)。同時に、子どもの学びと心を支える土台となるソフト面として、Academic Readiness Training を取り入れ、イライラ、気が散る状態を抑制して集中できる学習準備状態を作ること大事にしたり、アセスでより一人一人の子どもを多面的に見る教員の目を育てサポートに生かしたり(グラフ 1)しながら、教師のアカデミックなサポートとエモーショナルなサポートの両輪で学びと心を支えた。ハード面では、これまでの時間の使い方を見直し、行事等の精選だけでなく、ビジョンに向かって実態から必要と考えた取組(掃除や読書を大事にしたサイレントタイムの導入・最終下校時刻までの学習支援・教材研究のための学打等)の時間を増やしていった。ポジティブな働き方改革と共に教員の帰宅時刻も早くなっている(写真 4)。

活動の成果：

つけたい力を言語化・見える化したことで、カリキュラムマネジメントを手段としながら計画的・意図的にみんなで取組んでいると実感できるようになってきた。また、職員室で子どもの話、授業の話をするが増え、以前より声をかけ合ったり、訊ねたり、課題が生まれると活発に意見を出し合ったりすることが増えてきた。1 学期末の学校評価では「カリキュラムマネジメントの視点で見通しをもって取組むことができた。」「教材研究の学打ちがあるから授業の悩みも話しやすくなった。」「だったら、自分に何ができると考えるようになった。」等の声が寄せられた。学校全体で共通言語・共通実践が増え、笑顔と共に西っ子をみんなで育てる責任感が高まりつつある。

アピールポイント(アイデアや工夫)：「ピンチはチャンス！コロナをチャンスにする教育課程」

- ・みんなで向かう方向を決めれば当事者意識が高まり、「だったら…」と自分の持ち味を生かす教員増。
- ・「仲良きことは美しきかな」心と学びを支える取組の充実を図り、子どもも教員も笑顔で一歩前進。
- ・削減だけでなく、生み出す！教育課程を軸にしたカリキュラムマネジメントで働き方改革がポジティブに。

カリキュラムマネジメントを進めるにあたって、研修を計画・実施し、実態把握、具体的に言語化、見える化へ

<図 1> 全体研修から抜粋

<写真 1> 全体研修で

<写真 2> 学年・各種部会で



<図 2> 職員室の掲示(言語化)

<写真 3> 職員室の掲示(見える化)



子どもを見つめ、学び合う土台づくりへ

【Academic Readiness Training】
 学校全体で同じ指導を繰り返す共通実践
 ○ 実行機能に着目した聴き方・集中の習慣化
 ○ 子どもが自分でコントロールする力を実感

【アセス】 学校適応の向上
 「生活満足度」「教師サポート」「友人サポート」「非侵害的関係」「向社会的スキル」「学習的適応」から子どもの姿、心を多面的・多角的に捉えて支援に生かす方策を探り、学級づくりにも生かす。それは、子どもを見る目にも繋がる。

実行機能(授業場面) 抑制
 シフティング WM
 まっぴらまっぴらほかにあるよー

いきいきカエルボード

<グラフ 1> 学校適応の向上

<写真 4> (持ち味を生かした取組、いきいきカエルボード表・裏)

・計画的に見通しをもって仕事をするようになった。